

地区だより

…………… 令和4年12月1日発行

ちゅうおう

<地区人口と世帯数>

男 18,984人 女 20,479人
計 39,463人
世帯数：20,939世帯
(11月1日現在)

2022

12月号

市からのお知らせ

【編集発行】

福島市役所広聴広報課
〒960-8601 福島市五老内町3-1
☎525-3710 ㊟536-9828

信夫山ストリートがきれいな花で彩られました

10月29日、信夫山駒山公園で学法福島高校、福島成蹊高校、福島東稜高校の生徒の皆さんの協力により、プランターへの花植え作業を行いました。

花植えしたプランターは、都市緑化や来訪者へのおもてなしなどのために、パセオ通りから信夫山公園までの信夫山ストリート沿線事業所などに設置し、事業所の方々に水やりなどのお世話をしてもらいます。

■問／公園緑地課 ☎525-3737



▲14人の生徒に参加いただきました



▲信夫山ストリート沿線の皆さんにお世話になります

取り付けていますか？ 火災からあなたの身を守る住宅用火災警報器

平成23年6月から全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務化されています。

万一、火災が発生しても、住宅用火災警報器があればいち早く火災を知ることができます。火災が発生しやすい時季に向けて住宅用火災警報器の設置・点検をするようにしましょう。

住宅用火災警報器に関するご相談は、お近くの消防署までお問い合わせください。

■問／消防本部予防課 ☎534-9103 福島消防署 ☎534-9105

令和4年6月1日時点の設置率(総務省消防庁)

	全国	福島県	福島市
設置率	84.0%	79.2%	80.0%
条例適合率	67.4%	58.0%	53.0%

※設置率：市町村の火災予防条例で設置が義務付けられている住宅の部分のうち、1箇所以上設置されている世帯の全世帯に占める割合

※条例適合率：市町村の火災予防条例で設置が義務付けられている住宅の部分全てに設置されている世帯の全世帯に占める割合

住宅用火災警報器は10年を目安に交換を

設置時期は、住宅用火災警報器を設置したときに記入した設置年月か、本体に記載されている製造年を確認してください。

10年が経っていても、故障などの場合は交換が必要です。



◀詳しくは市ホームページをご覧ください



地区内の工事情報

工事箇所	工事種別	予定工期		備考	担当課
		着工	完了		
天神橋 (市道矢剣町・鳥谷下町線)	橋梁補修工事	令和4年12月上旬	令和5年3月下旬	午前9時～午後5時 片側交互通行	道路保全課

中央学習センターからのお知らせ

【編集】福島市中央学習センター
〒960-8018 福島市松木町1番7号
☎534-6631 ㊟533-7592

中央地区文化祭を開催しました

11月3日(木)～6日(日)に、第53回中央地区文化祭を開催いたしました。

「ウィズコロナ」の中での開催となりましたが、作品展示・活動紹介、芸能活動放映、こども広場(体験コーナー)等を行うことができました。

利用団体のみなさん、幼稚園の園児のみなさん、小学校の児童のみなさんの日頃の学習成果が披露され多くの来場者の方に来館していただきました。



令和4年度 こどもスキー教室を 開催します

- と き：令和5年1月28日(土)・29日(日)
《日帰り》
午前8時15分～午後4時30分
- ところ：二本松塩沢スキー場
- 対 象：中央地区に住んでいるか、中央地区の学校に通っている小学校3年生～6年生
- 定 員：30名
※定員を超えた場合には、後日、抽選結果をご連絡いたします。
- 参加費：5,500円(リフト代、昼食代など)
※スキーセット、ウェアセット、フルセットのレンタルを希望される方は別途料金がかかります。
- 締め切り：令和4年12月14日(水)まで
- 申込方法：オンライン申請で受付を行います。
詳細は、各学校から配布されるチラシをご覧ください。

サークル紹介

～楽しい絵手紙「笑夢」～

月1回テーマに添って楽しく描いている教室です。先生自ら作品を描きポイントレッスンもあります。今月は16日(金)に来年の干支「うさぎ」を中心に年賀状を作成します。絵が不得意だと思っている方、アイデアが欲しい方ぜひご参加ください。問合せ先(田中玲子：090-5354-5822)

令和やさしい地元学 信夫野・歴史の細道 第21回 ふくしまけん歴史の案内人の会 (元福島県遺跡の案内人の会) 会長：紺野義行氏

政宗飛躍の拠点・杉目城

伊達輝宗(16代)は息子政宗(17代)を伴ってたびたび杉目城(現：福島県庁)にやってきた。父晴宗(15代)と母久保姫が住んでいたこともあり、大森城よりも重要な拠点となっていた。政宗も輝宗亡き後、杉目城を米沢城に劣らず重視した。

天正5年(1577)正月7日伊達家佳例(かれい：めでたい先例)の連歌は晴宗在城の杉目城で催された。輝宗は伊具の陣所にいたが政宗を連れて参加している。

天正9年(1581)5月には、輝宗は15歳になった政宗をつれて伊具郡(丸森町)に出陣した。政宗にとっての初陣だった。翌年3月、父輝宗に従って杉目城におもむいた政宗は、その滞在中の4月1日には梁川の亀ヶ岡八幡宮に参拝し梁川城に泊り、3日杉目城にもどってきた。亀ヶ岡八幡宮への途中は桑折西山城近くを通り、参拝後梁川に一泊し先祖ゆかりの跡を巡ったといわれている。

また天正13年(1585)4月、小浜城(二本松市)を本拠にしていた大内定綱が離反し、二本松領主・畠山氏や会津領主・芦名氏の影響下に入っていた。大森城主・伊達成実は小浜周辺の確保を進言。荻松田城主・青木修理にひそかに接近して内応を勧める。修理立つの知らせを受けた政宗は閏8月12日杉目に到着、修理に恩賞として刀一振りを与えたという。荻松田城を“橋頭堡(きょうとうほ：攻撃拠点)”とした政宗は24日、大内氏側の小手森城(二本松市)を攻撃し、南下戦略を進めた。

荻松田城は、福島市飯野町南部の阿武隈川右岸の中山間地、南から北方向に張り出した丘陵上(標高254m)の山頂に築かれた戦国時代の城。築城時期は不明だが、城周辺の道路を作る際に発掘作業を行うと、建物の柱跡や16世紀後半の陶磁器などが出土している。小浜城の大内氏の家臣・青木修理の居城といわれる。青木氏はもともと懸田氏(懸田城(霊山町)主)の村地頭だったが、天文22年(1553)懸田氏が滅亡すると大内氏(小浜城主)に出仕したといわれる。

城脇を針道街道が通っているが、この地は信夫郡と安達郡を繋ぐ針道街道を抑える要衝となっている。



荻松田城跡近郊